

「思いやり・助け合い・安らぎ」の まちづくり

吉田地区コミュニティ・プラン



水戸市吉田地区自治実践会



東日本大震災による断水で助け合う吉田地区の人々

コミュニティ・プラン

人びとのきずなを深める

コミュニティ・プランをわかりやすくいうと、ひとつの地域社会づくりにあたります。

コミュニティという言葉は、同じ地域に住む人びとが営む共同(協働)社会を指しています。

コミュニティ・プランは、人びとがおたがいに顔見知り関係にあって、朝夕のあいさつや、まちの話題

を交換しあい、お祭りを一緒に盛りあげたり、また記憶に深くのこる東日本大震災のような地震など不慮の災害に遭って困った場合などに助け合う、仲間のような結びつきを築いて、人びとがきずなを深めながら、暮らしやすく住みよい地域空間をつくりあげるための設計図にあたります。

地域主役のまちづくり 安全・安心などを柱に

水戸市では、「地域が元気、地域主役のまちづくり」を基本理念とする「新コミュニティ推進計画」を、平成21(2009)年に立てています。平成9(1997)年につくられた市の第一期のコミュニティ推進計画を受けて吉田地区では、防犯パトロールや、それぞれのご家庭から賛助をいただいて地区防犯協会の設立などが実現しています。また、公民館に地域コミュニティ活動の拠点となる市民センターが設けられました。

市の「新コミュニティ推進計画」では、あたらしい21世紀にふさわしい内容を加え、さらなるコミュニティ活動を拡大発展させるために、これからの課題として6つの柱を立て活力ある地域づくりに向けた目標を掲げています。内容は次の通りです。

- ①教育(社会教育や学校教育など生涯学習の推進)
- ②福祉(子育て支援や高齢者支援など多世代の交流)
- ③安全・安心(安全なまちづくりや訓練による防災計画づくり)
- ④環境保全(ごみ減量やリサイクル活動と花などの環境美化)
- ⑤産業(商店街の活性化や観光資源の活用)
- ⑥多様な活動(ボランティアやNPOの協働推進)

こうした指針を基に、私たちの吉田地区もさまざまなコミュニティ活動に取り組もうとしているところです。

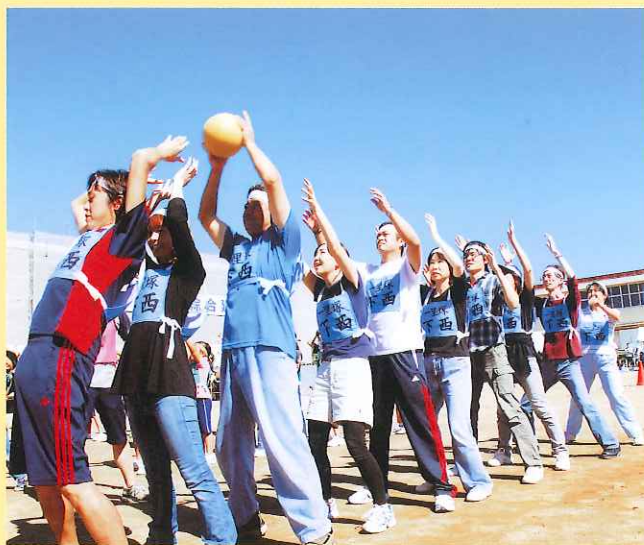
心のふれあう地域に 風格・安らぎ・元気

吉田地区では、将来の町内会のありかたを風格と安らぎのある、元気な吉田地区町内会でありたいと考えています。まちづくりにあたっては人びとの「思いやり、助け合い、安らぎの心を育みながら、心のふれあう地域社会づくりを目指しています。

地域の主役は、まずなによりも住民です。住民が連帯意識を強め、地域社会のさまざまな活動に積極的に参加して活動の輪を広げていくことが、元気なまちづくりにつながります。

吉田地区自治実践会では、「思いやり・助け合い・安らぎ」のまちづくりの実現に向けて、研修会や移動学

習など、少子・高齢化を含むさまざまな問題点を検討してきました。市の新コミュニティ推進計画を参照しながら、吉田地区のコミュニティ・プランをこれから本格的につくっていくにあたり、これまでに提案されている内容を紹介します。



地域の主役である住民たちの交流の場を

多彩なプログラムで 福祉・環境・ふれあい

吉田地区の将来に向けたコミュニティ推進計画は、多彩なプログラムで成り立っています。これは自治実践会のメンバーが、いろいろと話し合いながら骨格を定めたものです。いわば素案にあたります。6つの大きな柱と、それぞれに取り組む方式をあげました。まずは6つの大きな柱から紹介します。

- ①元気な自治組織のまちづくり
- ②学習と史跡のまちづくり
- ③頼れる福祉のまちづくり
- ④備えある「安全・安心」なまちづくり
- ⑤きれいな環境のまちづくり
- ⑥ふれあいと健康のまちづくり

こうした6つのまちづくりを進めるための内容は、次の通りです。

元気な自治組織のまちづくり

住民の町内会や自治会への加入の勧めからはじまり、地域コミュニティの核となる人材の発掘、リーダーの育成、コミュニティ活動の情報提供など人と活動の面に主眼をおきました。コミュニティに青年部

ができないか、情報提供に地区内の広報紙を発行したり、情報化の進展にあわせて拠点となる市民センターにホームページを開設してはどうかなどが組み込まれています。

学習と史跡のまちづくり

住民の生涯学習や知的・文化的な環境を整備したり充実させる方面から、地区主催の文化講演会や研修会、郷土の歴史再発見のためにうずもれた文献や資料の調査を進めたい考えです。宝庫ともいえる吉田地区ならではのたくさんある歴史遺産の保存承継と、それらをもとに新たな観光スポットの発掘も想定しています。

頼れる福祉のまちづくり

子ども・高齢者・障がい者に重点をおきました。子どもたちが明るく健全に育ち、高齢者には生きがいのもてる地域環境づくりをめざします。障がい者や高齢者が安心して暮らせる環境整備に、障害物の案内表示板をつくったり、ボランティアを確保したりします。ふれあいの機会、交流の場を通じて、福祉のニーズ(要望・希望)を掘り起こしていきます。また、子育て支援、託児などにも取り組みます。



子育て支援もコミュニティの中から

備えある「安全・安心」なまちづくり

すでに吉田地区では、平成21(2009)年に地区防災連合会が設立され、避難場所や給水、食料などの備蓄状況をお知らせしてあるのに加えて、地区防災マップの保存版をお配りしてあります。先の東日本大震災では、直前に初めての本格的な地区防災訓練がおこなわれました。大震災に必ずしも効果があったとはいえませんが、防犯、防火、交通安全とともに防災・減災対策をさらに補強するかたちで、コミュニティ

の安全・安心を高めていきます。

きれいな環境のまちづくり

ごみ対策、環境美化、花いっぱい運動が中心です。ごみ問題では、家庭ごみの減量運動や、資源物とごみの分別をさらに進めます。街路・公園の清掃、違法看板の撤去など地域クリーン作戦を促進していきます。地域を明るくして効果満点の花いっぱい運動では、苗の即売会をはじめ、家庭での花壇づくりの奨励、プランターによる花を植える運動も進めます。

ふれあいと健康のまちづくり

地区内で最大のイベントにあたる秋まつりを、さらに発展充実させるように地区内各クラブの発表の場を提供したり、模擬店の増加や、不用品バザー・セールを導入を考えています。また、市が主体となる市民運動会や歩け歩け大会、各種の球技大会にも地区からの参加を奨励し、あわせて住民の健康づくり、スポーツ教室の開催などに取り組みます。

以上が、コミュニティ・プランのあらましですが、話し合いのなかでは、防災訓練と実際に起きた巨大地震とのギャップ(隔たり)の大きさ、避難場所の不足といった体験に則した話題や、地区防犯協会で使っている青パトカーの増車、高齢者や弱者、ひとり暮らしの方への向き合いかたなど、実に多くの地域コミュニティがかかえる問題点、課題が提示されています。

コミュニティづくりには、住民参加がもっとも重要です。住民のきずなをもとにした、住民の話し合い、住民の積極的な行動が、地域の未来をつくります。人びとのワイワイ・ガヤガヤ、ガミガミ・ニコニコのなかから……。



吉田秋まつりには、地域の住民が数多く参加する

吉田地区 豊かな歴史遺産を包む

6世紀ごろにつくられた吉田古墳(国指定史跡)をはじめとする豊かな歴史遺産をもつ吉田地区は、はるか太古のむかしから人びとが暮らしを営んだ歴史のふるさとです。国や県指定の文化財の宝庫ともいえる薬王院、中世の吉田城、陸前浜街道の要所にあたる一里塚、かやぶき屋根をいまものこす綿引家住宅などに加えて、地名にもゆかりの深い吉田神社などが、往時からの歩みを伝えてくれます。

名利、古刹もたくさんあって豊かな歴史をしのばせる吉田地区の近代は、明治22(1889)年に施行されたはじめての市町村制度で発足した東茨城郡吉田村にはじまります。吉田、東野、米沢、吉沢、住吉と5つの大字からなる吉田村でしたが、区域内から吉田神社の境内地を主とする宮内町と、陸前浜街道に面した元台町が分離されて水戸市に移りました。その後、昭和30(1955)年に吉田村が水戸市へ合併される際に東野、米沢、吉沢、住吉が町となって独立するかたちで分かれ、吉田村のうち旧大字の吉田地区が、現在の元吉田町になりました。



昨年の震災で被災した吉田神社。着実に復興が進んでいる

吉田地区のあらまし 変化と発展のなかで

JR水戸駅の南部地域にひろがる台地に位置する元吉田町は、緑あふれる住宅地と各種の産業とが共存する、活力あふれるまちです。国道6号と国道50号の2本のバイパスが交差する交通の要衝でもあり、となりあう千波町とならんで発展性の高い、その分、変化もいちじるしい水戸駅南部の中核的市街地です。

地勢は、一部が第三紀層からなる丘陵地で、ほかは洪積層の台地からなっています。東西約2キロ、南北

約2.5キロの長方形からなる、広大なおおむね平坦地に約1万9000人が暮らしています。ひとつの町としては巨大な町並みをかたちづくっていますから、小学校区は吉田小、千波小、浜田小の3つに分かれています。

吉田小の学区(約5300世帯、約1万3000人)のうち、約3700世帯、約1万人が加入している31の町内会で構成する連合組織が、吉田地区自治実践会です。

町が大きいことによる利点がありますが、一体感をかもしだす要素は、どうしても薄くなります。大きすぎるがために地番に頼るだけでは、町なかの位置や地理的關係が見分けにくくなります。地域の目印、いわばランドマークにあたる公共施設(学校・市民センター・図書館・公園など)、スーパーなどの店舗や金融機関もたくさんありますが、どうしてもわかりにくいなどマイナス面も抱えています。

吉田村と元吉田町の人口の推移(国勢調査)

回	調査年	世帯	人口(人)	男	女
1	1920(大正9)	487	2264	1115	1149
2	1925(大正14)	516	2390	1143	1347
3	1930(昭和5)	572	2743	1335	1408
4	1935(昭和10)	634	3085	1480	1605
5	1940(昭和15)	—	3617	1850	1767
6	1947(昭和22)	1003	5036	2390	2646
7	1950(昭和25)	933	4449	2166	2283
8	1955(昭和30)	989	4694	2264	2430
9	1960(昭和35)	1232	5508	2637	2871
*					
10	1965(昭和40)	1532	5806	2902	2904
11	1970(昭和45)	2476	8639	4320	4319
12	1975(昭和50)	3577	12010	5970	6040
13	1980(昭和55)	4279	13428	6090	6738
14	1985(昭和60)	5241	15658	7829	7829
15	1990(平成2)	5981	16817	8347	8490
16	1995(平成7)	6958	17828	8999	8829
17	2000(平成12)	7481	18375	9177	9198
18	2005(平成17)	7830	18549	9085	9464
19	2010(平成22)	8307	19028	9406	9622

注1 1960年までは吉田村(東野、米沢、吉沢、住吉を含む)全体の数字。

1965年以降は水戸市元吉田町に限っている

2 1945年は戦争終結直後で調査中止。47年に臨時で調査

3 吉田、千波、浜田の3小学校区別統計は不在

作 成—水戸市吉田地区自治実践会(吉田市民センター内)
協 力—地区内全町内会
写真提供—北條勝成さん、小环洋蔵さん
印 刷—株式会社 光和印刷
発 行—平成24(2012)年3月15日
吉田地区コミュニティ・プラン